

ホームルーム/ビジネスマナー

授業の目的・概要

エ本授業では、学校生活や就職活動、社会人として必要となる基本的なビジネスマナーとコミュニケーション能力の習得を目的とする。研修旅行における事前・事後学習を通して業界理解や職業観を深めるとともに、名刺交換、電話対応、挨拶文・お礼状作成などの実践的なビジネスマナーを学ぶ。また、デジタル履歴書の作成や面談を通して自己理解を深め、就職活動に必要な基礎力を養う。グループワークや実践演習を取り入れ、主体性や協調性、社会人としての適切な行動力を身につけることを目指す。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

授業計画

- 1 回 自主行動型自己紹介、面談①
- 2 回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー) 面談②
- 3 回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ（グループワーク）、ルールブック読み合わせ
- 4 回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5 回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6 回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7 回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8 回 名刺交換実践②

- 9 回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10 回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11 回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12 回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13 回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書
- 14 回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15 回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16 回 挨拶文・お礼状作成③実践
- 17 回 仕事内容理解①―就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 18 回 仕事内容理解②―職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 19 回 仕事内容理解③―1 日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 20 回 仕事内容理解④―必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 21 回 研修旅行事後学習①―仕事内容の整理
- 22 回 研修旅行事後学習②―仕事のやりがい・大変さ
- 23 回 研修旅行事後学習③―自分との適性を考える
- 24 回 電話対応①電話機操作方法、話し方、電話例
- 25 回 電話対応②実践 1 回目
- 26 回 電話対応③実践 1 回目
- 27 回 電話対応④実践 1 回目
- 28 回 電話対応⑤実践 2 回目
- 29 回 電話対応⑥実践 2 回目
- 30 回 総復習、振り返り

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリント・生体を用いて内容を解説していく

教材

2026 年度

自作

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲/出席率 50%

授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

インターンシップに参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

実務経験と授業科目の関係

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

コンピューター実習Ⅰ

授業の目的・概要

Microsoft Word: 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

Microsoft Excel: 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

Microsoft PowerPoint: 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

科	生命科学科	教員	大西 望
コース	スモールアニマルコース	教員の实務経験	講師経験：10 年、PC サポート 13 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

授業計画

前期

第 0 1 回 :オリエンテーリング授業概要、評定基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回 :Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第 0 3 回 :PowerPoint (1) PowerPoint の概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第 0 4 回 :PowerPoint (2) 図形の挿入、SmartArt、練習問題

第 0 5 回 :PowerPoint (3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第 0 6 回 :PowerPoint (4) PowerPoint の振り返り

第 0 7 回 :Word (1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第 0 8 回 :Word (3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第 0 9 回 :Word(4)文書作成の振り返り

第 1 0 回 :Word (5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第 1 1 回 :Word (6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第 1 2 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第 1 3 回 :Word (7) 表のある文書を作成しよう①第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 4 回 :Word (8) 表のある文書を作成しよう②第 3, 4 章の振り返り、答え合わせ

第 1 5 回 :Word (9) 期末試験対策

第 1 6 回 :確認テスト

第 1 7 回 :自主学習 : Word でポスターを作る方法をレポートにまとめる。

第 1 8 回 :前期期末試験の返却

後期

第 1 9 回 :後期授業概要、評価基準

第 2 0 回 :Excel (1) Excel の概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー

第 2 1 回 :Excel (2) データや数式の入力の振り返り

第 2 2 回 :Excel (4) オート SUM 関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

- 第 2 3 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り
- 第 2 4 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 2 5 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 6 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 2 7 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 2 8 回 :Excel (1 0) データベース機能の振り返り
- 第 2 9 回 :Word の差し込み印刷
- 第 3 0 回 : 外部アプリからのデータを貼り付け
- 第 3 1 回 :Excel (1 1) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り
- 第 3 2 回 :Excel (1 2) 期末試験対策②データベース機能の振り返り
- 第 3 3 回 :確認テスト
- 第 3 4 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる
- 第 3 5 回 :確認テスト返却

授業の方法

コンピューターによる演習

教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』
(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくことも

に、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

資格対策

授業の目的・概要

本授業では、サービス接遇検定および愛玩動物飼養管理士資格の取得を目指し、試験範囲に基づいた知識と実践力を身につけることを目的とする。サービス接遇検定では、接客に必要な接遇マナーや対人技能、実務知識について学び、模擬試験を通して理解を深める。愛玩動物飼養管理士対策では、動物の行動学、栄養学、愛護・法規、生活環境学など幅広い分野を学習し、課題演習やデジタル講義、模擬試験を通して試験対応力を養う。継続的な学習習慣を身につけ、資格取得を通して動物業界で求められる基礎知識と実践力の修得を目指す。

科	資格対策	教員	荻野
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	愛玩動物飼養管理士/サービス 接遇検定共に 2 級所持
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

資格試験に合格することができる。

サービス接遇検定⇒模擬テスト各回 6 割以上の正答率を出すことができる。

愛玩動物飼養管理士⇒受験資格の取得(講習会と課題提出の達成)、模擬テスト各回 8 割以上の正答率を出すことができる。

授業計画

サービス接遇検定

第 1 週 オリエンテーション(受験申込書記入/試験概要の説明(愛玩含む))

第 2 週 試験範囲の配布(サービススタッフの資質、専門知識、一般知識、対人技能、実務技能)

第 3 週 試験範囲対策及び説明

第 4 週 模擬テスト①

第 5 週 模擬テスト②

第 6 週 模擬テスト③

第 7 週 模擬テスト④

愛玩動物飼養管理士

第 8 週 オリエンテーション(教科書配布/スクーリング講習と提出課題の告知/マイページ作成)

- 第 9 週 スクーリング講習①
- 第 10 週 スクーリング講習②
- 第 11 週 スクーリング講習③
- 第 12 週 マークシート課題実施期間①
- 第 13 週 マークシート課題実施期間②
- 第 14 週 マークシート課題実施期間③
- 第 15 週 マークシート課題実施期間④(提出日)
- 第 16 週 問題集解答及び解説配布
- 第 17 週 デジタル講義(行動学・栄養学)
- 第 18 週 デジタル講義(愛護・法規)
- 第 19 週 デジタル講義(動物学・指導論)
- 第 20 週 デジタル講義(生活環境学・産業概論)
- 第 21 週 模擬テスト期間①
- 第 22 週 模擬テスト期間②
- 第 23 週 模擬テスト期間③
- 第 24 週 模擬テスト期間④
- 第 25 週 試験直前案内及び総復習
- 第 26 週 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 第 27 週 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 第 28 週 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 第 29 週 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策
- 第 30 週 愛玩動物飼養管理士 1 級/サービス接遇検定 2 級対策

授業の方法

講義も交えつつ、模擬テストを繰り返し行い試験日までに合格ラインに到達する。

教材

サービス接遇検定実問題集/愛玩動物飼養管理士教本 2 冊/スクーリング資料/課題報告問題集

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲/出席率 50%

2026 年度

授業外での学習方法

サービス接遇検定実問題集の解答を行う。

愛玩動物飼養管理士のスクーリング講習を受講し、課題報告問題を解きマークシートに解答する。

実務経験と授業科目の関係

愛玩動物飼養管理士/サービス接遇検定共に 2 級所持。問題の傾向や解答の進め方などのリアルな対策の仕方を伝える。

陸上実習

授業の目的・概要

本授業では、各種スポーツ競技を通して、基礎体力の向上と運動技能の習得を目的とする。バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ドッジボール、サッカーなどの種目を実践的に学び、基本技術やルール、チームプレーの重要性を理解する。また、スポーツ大会や練習試合を通して協調性やコミュニケーション能力を養い、健康維持や体力向上への意識を高める。さらに、体力テストやシャトルランを実施し、自身の体力状況を把握するとともに、継続的な運動習慣の形成を目指す。安全面や用具の適切な取り扱いについても学び、主体的に活動へ参加できる態度を育成する。

科	生命科学科	教員	神垣 厚治
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	ダンスインストラクター15年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

1、ルール、マナー、協調性の理解と育成

→競技ごとのルールや、安全に活動するためのマナー、仲間と協力する力やコミュニケーション力を養う。

2、健康意識の向上

→運動の大切さを理解し、日常生活でも健康を意識する習慣を身につける。

3、記録への挑戦

→目標を立てて記録向上を目指すことで、達成感や努力する姿勢を身につける。

授業計画

前期

第1回 授業説明(実施場所、用具取り扱い、注意点)・各スポーツ競技練習(バスケット・バレー等)

第2回 バスケット(パス・シュート基礎)

第3回 バスケット(レイアップ・フリースロー基礎)

第 4 回 バスケット（ドリブル・5 対 5 練習試合）

第 5 回 バトミントン（下半身を鍛えるフットワーク基礎）

第 6 回 スポーツ大会練習期間・各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）①

第 7 回 スポーツ大会練習期間・各競技（バスケット・バトミントン・バレー・ドッチボール等）②

第 8 回 バトミントン（素振り・リフティング練習）

第 9 回 バトミントン（2 対 2 練習試合）

第 10 回 ドッチボール（投げ合い基礎）

第 11 回 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）①

第 12 回 ドッチボール（攻撃・守備・セーフ・アウト基礎）②

第 13 回 ドッチボール（チーム対抗試合）

第 14 回 バレーボール（パス・レシーブ基礎）

第 15 回 前期試験期間（体力テスト・・反復横跳び・垂直飛び・握力・立ち幅跳び等）

第 16 回 前期試験採点期間 前期のまとめ（各スポーツ練習試合）①

第 17 回 前期試験返却期間（各スポーツ練習試合）②

第 18 回 バレーボール（サーブ・トス練習）

第 19 回 バレーボール（チーム対抗試合）

後期

第 20 回 サッカー①ー（リフティング）

第 21 回 サッカー②ー（パス・ドリブル）

第 22 回 サッカー③ー（チーム対抗試合）

第 23 回 バトミントン（チーム対抗試合）①

第 24 回 バレーボール（チーム対抗試合）①

第 25 回 ドッジボール（チーム対抗試合）①

第 26 回 バスケットボール（チーム対抗）①

2026 年度

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 第 27 回 | バドミントン（チーム対抗戦）② |
| 第 28 回 | バレーボール（チーム対抗試合）② |
| 第 29 回 | ドッジボール（チーム対抗試合）② |
| 第 30 回 | 後期試験練習（シャトルラン） |
| 第 31 回 | 後期試験期間（シャトルラン） |
| 第 32 回 | 後期試験採点期間 後期のまとめ（各スポーツ練習試合）① |
| 第 33 回 | 後期試験返却期間（各スポーツ練習試合）② |
| 第 34 回 | 競技選択（各スポーツ練習試合）① |
| 第 35 回 | 競技選択（各スポーツ練習試合）② |

授業の方法

実技・体力テスト

教材

なし

評価の方法

期末試験 40%、平常点 40%、出席 20%

平常点は、授業態度と問題演習への取り組みを総合的に評価する。

授業外での学習方法

各自、授業外でのストレッチや補強トレーニング

実務経験と授業科目の関係

主にルール、マナー、協調性への理解は社会に出ていく中で、必要不可欠なものになるので、自身の実体験を含めながら説明していく。

人間形成概論

授業の目的・概要

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、
生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	生 命 科 学 科 動 物 看 護 学 科 環境科学科	教員	長岡 真美 森田 陵介
コース	ス モ ー ル ア ニ マ ル コ ー ス	教員の実務経験	なし
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うとともに、
グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分
析する。

授業計画

- 1 回 講師の自己紹介,生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1) -対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2) -原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1) -人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2) -言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について
- 9 回 感情について
- 10 回 ストレスについて(1) -ストレスとは

- 11 回 ストレスについて(2) -ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1) -前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2) -前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 17 回 交流分析とマインドフルネス(1) -コミュニケーションを理解する観察法
- 18 回 交流分析とマインドフルネス(2) -交流パターンの分析について
- 19 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -カウンセリングと悩み相談について
- 20 回 カウンセリング、悩み相談について(1) -グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 21 回 動機付け(1) -欲求、動機付けについて
- 22 回 動機付け(2) -情動、自己効力感について
- 23 回 集団について(1) -集団規範とは
- 24 回 集団について(2) -他者から与えられる影響について
- 25 回 コーチングについて
- 26 回 リーダーシップ(1) -リーダーシップの歴史について
- 27 回 リーダーシップ(2) -仕事での集団の形について
- 28 回 人間関係を難しくする障害
- 29 回 後期まとめ(1) -後期授業のまとめ
- 30 回 後期まとめ(2) -後期内容についてのまとめ問題を実施

授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

教材

山 蔦圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）

2026 年度

ISBN 978-4-525-50451-9

評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、
試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

授業で出てくる用語は、社会で生きていく上での人間関係構築に関することが多くある。
教員の実体験を含めながら説明していく。

インターンシップ I

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助

第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動 I

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全コース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 第 18 回 | KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解） |
| 第 19 回 | KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認） |
| 第 20 回 | KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成） |
| 第 21 回 | KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成） |
| 第 22 回 | KAP エキスポへの参加 |
| 第 23 回 | KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理） |
| 第 24 回 | KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有） |
| 第 25 回 | 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解） |
| 第 26 回 | 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法） |
| 第 27 回 | 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理） |
| 第 28 回 | 卒業研究発表会への参加 |
| 第 29 回 | 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有 |
| 第 30 回 | 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定） |

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

基礎生物学

授業概要

本授業は動物業界への就職を目指す学生を対象に、生物学の基礎的知識と生命現象の理解を養うことを目的とする。細胞の構造と機能、代謝とエネルギー、遺伝情報の発現、体内環境の恒常性、免疫や神経・内分泌系などの人体の仕組みを体系的に学ぶ。さらに生物の多様性と分類、生態系の成り立ちを通して生命の相互関係を理解し、動物の健康管理や関連職種に必要な科学的思考力の基盤を形成する。また各回で基礎から応用へ段階的に理解を深め、動物看護や飼育管理、感染症予防など現場での実践力につなげる。総復習を通じて知識の定着を図るとともに、基礎学力の確認を行う。動物業界で求められる科学的理解の基盤を養うことを目指す。

科	生命科学科	教員	鈴木 春雄
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期…生体を構成する細胞をはじめ、組織、遺伝子、主な臓器について理解することができる。
後期…生体防御、体内環境、神経系や内分泌系等の構造や働きについて理解することができる。

授業計画

- 第 1 回 生物の多様性と共通性
- 第 2 回 細胞（１）（特徴、大きさ、真核・原核細胞）
- 第 3 回 細胞（２）（細胞構造とその働き）
- 第 4 回 代謝とエネルギー・ATP
- 第 5 回 酵素の働き
- 第 6 回 遺伝子情報と DNA
- 第 7 回 体細胞分裂

- 第 8 回 遺伝情報の発現(1) (転写、翻訳)
- 第 9 回 遺伝情報の発現(1) (タンパク質とその合成)
- 第 10 回 減数分裂
- 第 11 回 体内環境と恒常性
- 第 12 回 循環器系 (心臓)
- 第 13 回 肝臓の働き、腎臓の働き
- 第 14 回 腎臓の働き、消化器系の働き
- 第 15 回 前期のまとめ
- 第 16 回 生体防御 (1) (免疫とは)
- 第 17 回 生体防御 (2) (適応免疫の仕組み)
- 第 18 回 生体防御 (3) (免疫異常と病気、予防接種)
- 第 19 回 ヒトの神経系
- 第 20 回 自律神経 (交感神経、副交感神経)
- 第 21 回 内分泌系(1) (ホルモンとその働き)
- 第 22 回 内分泌系(2) (内分泌腺について)
- 第 23 回 体内環境(1) (糖尿病と血糖値)
- 第 24 回 体内環境(2) (体温、体液)
- 第 25 回 生物の分類
- 第 26 回 生物の多様性(原核生物界、原生生物界等)
- 第 27 回 後期のまとめ
- 第 28 回 生物の多様性と生態系(1) (植生、階層構造、バイオーム)
- 第 29 回 生物の多様性と生態系(2) (生態系、生態系の成り立ち、食物連鎖)
- 第 30 回 総復習

授業の方法

教材と板書

2026 年度

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験 80%、 平常点 20%(出席率、授業態度)

授業外での学習方法

事前学習では教科書の該当範囲を読み、用語の意味を確認し予習課題に取り組む。事後学習では講義内容をノートで整理し、演習問題や復習課題を通して理解を定着させ、疑問点を解消する

実務経験と授業科目の関係

-

動物関連法規学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる法律や制度について基礎から学び、適正な動物飼養と社会的責任への理解を深めることを目的とする。狂犬病予防法や動物愛護管理法を中心に、動物取扱業の規制、飼い主の責任、動物虐待防止、マイクロチップ制度、感染症対策などについて体系的に学習する。また、動物の死体処理や埋葬に関する法的知識など、現場で求められる実務的な内容についても理解を深める。講義を通して、動物福祉の視点を持ちながら法令を遵守し、動物関連業界で適切に行動できる知識と倫理観の修得を目指す。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

法律の仕組み、狂犬病予防法など動物に関わる以上は必須となる制度について理解できるようになる。

後期

動物愛護法を中心にペットビジネスや動物を飼育する際に知っておくべき事柄や制度について理解できるようになる。

授業計画

- 1 回 授業概要紹介、自己紹介など
- 2 回 犬猫飼養頭数、動物に関する社会の現状など
- 3 回 狂犬病予防法（1）狂犬病とは その 1
- 4 回 狂犬病予防法（2）狂犬病とは その 2
- 5 回 狂犬病予防法（3）狂犬病清浄国・地域について
- 6 回 狂犬病予防法（4）狂犬病予防法の概要 その 1 法の概要、目的
- 7 回 狂犬病予防法（5）狂犬病予防法の概要 その 2 対象動物、輸入禁止動物（感染症法）
- 8 回 狂犬病予防法（6）狂犬病予防法の概要 その 3 畜犬登録、狂犬病予防注射制度

- 9 回 狂犬病予防法（7）狂犬病予防法の概要 その4 罰則など
- 10 回 動物が亡くなった場合（1）動物や動物の死体の法的立場
- 11 回 動物が亡くなった場合（2）廃棄物処理法と化製場法と動物
- 12 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その1
- 13 回 動物が亡くなった場合（3）人の墓に動物を入れることはできるのか その2
- 14 回 動物愛護法（1）法律の成立背景その1
- 15 回 動物愛護法（2）法律の成立背景その2
- 16 回 動物愛護法（3）目的
- 17 回 動物愛護法（4）基本原則
- 18 回 動物愛護法（5）動物の飼い主の責任 その1
- 19 回 動物愛護法（6）動物の飼い主の責任 その2
- 20 回 動物愛護法（7）動物虐待に対する罰則 その1
- 21 回 動物愛護法（8）動物虐待に対する罰則 その2
- 22 回 動物愛護法（9）動物取扱業の規制 その1
- 23 回 動物愛護法（10）動物取扱業の規制 その2
- 24 回 動物愛護法（11）動物取扱業の規制 その3
- 25 回 動物愛護法（12）動物取扱業の規制 その4
- 26 回 動物愛護法（13）第2種動物取扱業、実験動物と産業動物、
- 27 回 動物愛護法（14）特定動物 その1
- 28 回 動物愛護法（15）特定動物 その2
- 29 回 動物愛護法（16）マイクロチップの装着
- 30 回 動物愛護法（17）自治体の役割

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

2026 年度

授業外での学習方法
1 回 1 回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係
動物分野を専門とする行政書士として長らくペット分野の許認可を含む法律事務業務を行っており、ペットビジネスのサポートを行っている。それらの経験を下地に、主にペットに関する法律を詳しく解説していく。

コンパニオンドッグ I

授業の目的・概要

本授業では、コンパニオンドッグとしての犬について、歴史的背景や人との関わりを踏まえながら、犬種の成り立ちや分類、特徴について体系的に学ぶことを目的とする。犬の体型、被毛、カラー、なりやすい疾患などの基礎知識を理解するとともに、FCI グループ分類に基づく各犬種の特徴や役割について学習する。また、人気犬種を含む多様な犬種の特徴を比較し、飼育管理や接し方への理解を深める。講義を通して、犬に関する専門的知識を身につけ、適切な飼育指導や接客対応ができる基礎力の修得を目指す。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・犬種ごとの特徴（分類、歴史、性格、適切な飼育環境、行動特性など）を学び、適切な飼育・管理およびケアに関する基礎知識を習得することができる。
- ・日本での人気犬種について学び、犬種ごとの特徴について説明することができる。
- ・グループごとに犬種について学び、説明することができる。

授業計画

第 1 回 自己紹介

第 2 回 コンパニオンドッグとは（動物と犬と人の歴史）・犬種の成り立ち、犬の被毛、カラー

第 3 回 犬の基礎知識（犬の体型、なりやすい病気）

第 4 回 犬の種類のグループ分けについて(1G、2 G、3 G、)

第 5 回 犬の種類のグループ分けについて（4 G、5 G、6 G、7 G）

第 6 回 犬の種類のグループ分けについて（8 G、9 G、10G）

第 7 回 人気犬種①－ 1

第 8 回 人気犬種①－ 2

第 9 回 人気犬種②－ 1

第 10/回 人気犬種②－ 2

第 11 回 人気犬種③－ 1
第 12 回 人気犬種③－ 2
第 13 回 人気犬種④
第 14 回 人気犬種⑤
第 15 回 1 G の犬種①
第 16 回 1 G の犬種②
第 17 回 2 G の犬種
第 18 回 2 G の犬種②
第 19 回 3 G の犬種①
第 20 回 3 G の犬種②
第 21 回 5 G の犬種
第 22 回 6 G の犬種
第 23 回 7 G の犬種
第 24 回 8 G の犬種
第 25 回 9 G の犬種①
第 26 回 9 G の犬種②
第 27 回 1 0 G の犬種①
第 28 回 1 0 G の犬種②
第 29 回 試験対策・振り返り
第 30 回 後期期末試験（返却・解説）

授業の方法

演習

教材

まるごとわかる犬種大図鑑／必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

担当教員は、ペット業界における多様な実務経験を有しており、その経験に基づき、犬種ごとの特性に応じた管理方法、グルーミング・しつけ・接客・健康管理における実践的対応について具体的かつ実務的に指導する。これにより、受講者は各現場で求められる判断力と対応力を養い、即戦力として通用する知識および技術を総合的に修得する。

コンパニオンキャット I

授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

科	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来る。

分かり易く的確に説明することができる。

猫種名・猫と犬を比較して説明することができる。

後期

飼い主の条件・純血種のタイプ・遺伝病・健康チェック・自宅に迎える準備、迎えて時の対応の仕方、猫のシャンプー、猫種のスタンダードを理解することができる。

授業計画

前期

- 1 回目 オリエンテーション（講師の自己紹介・授業の目的、内容、授業を受ける態度、提出物の期日厳守、評価の出し方）アンケート用紙を渡し来週提出するように説明する。
- 2 回目 CFA 公認猫種カラーコピーを配布、学生に猫名を記入させる（コンパニオンキャットの授業の時は必ず持参する）
- 3 回目 猫の歴史（猫の起源、日本猫の歴史）を講義する。

4 回目 猫の起源に似ていると言われている、アビシニアン・ソマリ・シンガプーラ（ティクドの毛色の猫種 アビシニアン・ソマリ・シンガプーラ）を説明する。

5 回目 提出したアンケートの質問にある「ペットロス」「猫の外飼い」「避妊・去勢手術」について講義する。

6 回目 FIV(猫エイズ)について講義する。純血種/MIX の定義、多胎性を講義する。

7 回目 LH/SH・MALE/FEMALE の性格・飼い方等の違い、LH/SH の毛の長さの遺伝の仕方を説明する。

8 回目 猫と犬の違い① 全般・習性・体型・感触（皮膚）説明する。

9 回目 猫と犬の違い② 歯（スケアリング）・腸管・爪を説明する。

10 回目 猫と犬の違い③尾（感情表現）スタンダード（ジャパニーズボブテール・トイボブ・アメリカンボブテール・マンクス）を説明する。

11 回目 猫と犬の違い④ 体臭・排泄物・種類・毛色の説明をする。

12 回目 猫と犬の違い⑤ 繁殖機能を説明する。

13 回目 行動学① 運動機能・舌・鼻・髭を説明する。

14 回目 行動学② 目・耳・鼻・内臓を説明する。

15 回目 行動学③ 年齢・体感・夢を説明する。

後期

16 回目 ペットの飼い主の条件、「トキシプラズマ症」を説明する。

17 回目 純血種の4つのタイプ ペットタイプ・ブリーディングタイプ（遺伝病 PKD/心筋症）を説明する。

18 回目 ショータイプ・トップショークオリティータイプを説明する。

19 回目 健康チェック① 行動・目・コート（真菌症）を説明する。

20 回目 健康チェック② 寄生虫・耳・骨格・腹の膨らみ（猫伝染性腹膜炎）の説明をする。

21 回目 健康チェック③ 肛門・尾・歩行・口腔内を説明する。

22 回目 自宅に猫を迎える準備・用品の選び方を説明する。

23 回目 自宅に猫を迎えた時の注意① 家族の対応の仕方を説明する。

2026 年度

- 24 回目 自宅に猫を迎えた時の注意② 餌・名前・トイレのしつけなどの説明をする。
- 25 回目 猫のシャンプー① 犬と猫の目的の違い、扱いの違いを説明する。
- 26 回目 猫のシャンプー② 犬と違う作業の順番を説明する。
- 27 回目 猫のシャンプー③ より早く作業を行う為にどうするかを説明する。
- 28 回目 自宅課題（内容未定）
- 29 回目 CFA 公認猫種 DVD①を見せながら、スタンダードの説明をする。
- 30 回目 公認猫種 DVD②を見せながら、スタンダードの説明をする。

授業の方法

座学（講義）

教材

CFA 公認猫種カラープリント

アメリカンショートヘア・オリエンタルタイプの猫・ペルシャのスタンダードのプリント

授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットショーの見学

評価の方法

初回の授業で、評価の出し方を学生に伝える。

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

2026 年度

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

エキゾチックアニマル I

授業の目的・概要

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要 4 種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	生命科学科	教員	金田
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	観光牧場飼育員 4 年
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得することができる。
ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明することができる。
飼育動物の基礎知識を固めることができる。

授業計画

- 1 回 エキゾチックアニマルとは
- 2 回 ペットの適性について
- 3 回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4 回 ハムスターについて（体の特徴、前軀）
- 5 回 ハムスターについて（体の特徴、後軀）
- 6 回 ハムスターについて（生理的な特徴）
- 7 回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8 回 ハムスターについて（繁殖）
- 9 回 ハムスターについて（飼育要因の疾病）
- 10 回 ハムスターについて（感染症）
- 11 回 モルモットについて（分類・歴史）
- 12 回 モルモットについて（体の特徴、前軀）
- 13 回 モルモットについて（体の特徴、後軀）
- 14 回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 15 回 モルモットについて（飼育方法）

- | | |
|------|--------------------|
| 16 回 | モルモットについて（飼育要因の疾病） |
| 17 回 | モルモットについて（感染症） |
| 18 回 | ウサギについて（分類・歴史） |
| 19 回 | ウサギについて（体の特徴） |
| 20 回 | ウサギについて（生理的な特徴） |
| 21 回 | ウサギについて（飼育方法・繁殖） |
| 22 回 | ウサギについて（成長過程） |
| 23 回 | ウサギについて（飼育要因の疾病） |
| 24 回 | ウサギについて（感染症） |
| 25 回 | フェレットについて（分類・歴史） |
| 26 回 | フェレットについて（体の特徴、前軀） |
| 27 回 | フェレットについて（体の特徴、後軀） |
| 28 回 | フェレットについて（生理的な特徴） |
| 29 回 | フェレットについて（飼育方法） |
| 30 回 | フェレットについて（病気） |

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリント・生体を用いて内容を解説していく

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編第三版一巻 種類・生態・飼育・疾病
⇒著者：霍野 晋吉、横須賀 誠 発行所：緑書房 発行年：2022 年 1 月 20 日

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをもとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

観光牧場・ふれあい広場にて、ウサギ・モルモット・家禽等が飼養される環境で勤務していたため、小動物の知識・技術を教えることができる。動物園での実務経験あり。

トレーニング概論・実習Ⅰ

授業概要・目的

犬を扱う仕事（トリマー、ペットショップ、動物看護師、ドッグトレーナー）をする上で必要な知識を身につけるために犬の生態、特質、犬種のもつ特性を理解し犬を正しく扱えるようになる。また家庭犬としてのしつけに必要な知識と技術を得る

科	生命科学科	教員	田村 亜理沙
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

犬の歴史と進化、家畜化について理解することができる。

犬の生態、習性や行動を理解することができる。

後期

犬のボディランゲージやサインを理解し、犬とのコミュニケーション技術を身に付けることができる。

人と犬との生活のルールやマナーを構築していく為の知識を身に付けることができる。

授業計画

- 第1週 実習の諸注意、班分け、
- 第2週 犬の歴史
- 第3週 犬の進化
- 第4週 家畜化とは
- 第5週 犬の生得的本能
- 第6週 犬の素因
- 第7週 犬種の特徴
- 第8週 特質について
- 第9週 犬の素因と育つ環境の相互作用
- 第10週 犬の脳と行動の関係

- 第 11 週 子犬の成長過程 1（パピー～幼犬）
- 第 12 週 子犬の成長過程 2（成犬～老犬）
- 第 13 週 犬の思春期がもたらす行動の変化
- 第 14 週 犬の群れの階級とは
- 第 15 週 犬のボディランゲージ/同種同士のコミュニケーション
- 第 16 週 実技テスト（前半）・練習
- 第 17 週 実技テスト（後半）・練習
- 第 18 週 ボディランゲージ 1
- 第 19 週 ボディランゲージ 2
- 第 20 週 犬のストレス
- 第 21 週 犬の威嚇、攻撃行動
- 第 22 週 カーミングシグナル 1
- 第 23 週 カーミングシグナル 2
- 第 24 週 犬のパーソナルスペース
- 第 25 週 犬と人との暮らしについて/犬を飼うことのリスクとメリット
- 第 26 週 家庭犬の選び方/家庭犬のしつけとは
- 第 27 週 犬の去勢と避妊について/多頭飼育について
- 第 28 週 犬の飼い主の為のリーダーシップ教育とは/リードプログラム
- 第 29 週 リードプログラム
- 第 30 週 ハウストレーニングとトイレトレーニング
- 第 31 週 甘噛み・いたずら噛み
- 第 32 週 子供のいる家庭での犬との関係づくり
- 第 33 週 嫌悪刺激によるトレーニングの弊害と動物虐待、暴力の連鎖
- 第 34 週 実技テスト（前半）・練習
- 第 35 週 実技テスト（後半）・練習

授業の方法

座学、実際に犬を使つての実技実習

教材

テキスト、DVD 等

評価の方法

2026 年度

試験 80%、実習記録ファイル評価 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

実習犬の散歩等を通して、犬の管理や取扱い

実務経験と授業科目の関係

陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える

グルーミング概論・実習Ⅰ

授業の目的・概要

シャンプー犬種のグルーミングの意義を理解し、実際に犬の爪切り、バリカン、耳掃除、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、足回りカット、リボン付けを行い、犬の保定の仕方や犬の扱い方、グルーミングの基礎を学ぶ。学生同士協力し、周りに気を配りながら実習を行うことで、コミュニケーション能力と協調性を兼ね備えた人材を目指す。

科	生命科学科	教員	草刈 祐子・呉坪 静香
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	トリマー 3 年半
対象年次	1 年	年間単位数	5 単位

目標

前期

グルーミング道具の使い方、用途を理解し、2 人で 1 頭仕上げる事が出来るようになる。

ハサミの動かし方、犬の保定方法、犬の扱い方、消毒の作り方、掃除の方法を理解し身に付けることができる。

後期

犬に負担がかからないように仕上げられるスキルを取得する。

授業計画

- 1 回 座学①(グルーミングとは、道具配布・説明、ブラッシング、コーミング)
- 2 回 座学②(耳掃除、爪切り、クリッピング、ペーシング、効エリング、ドライイング、道具によるケア、足周り、ハサミ、犬の体・骨格について)
- 3 回 座学③(体調チェック・事故報告書、預かり用品・体調チェック表、消毒液の希釈方法、服装、準備方法、道具の片づけ方法、掃除諸注意、ウィッグ 梳き、綿花巻き方、箱作り、バリカンハサミ手入方法)
- 4 回 座学④(実習室案内、リボン付け、ラップ 紙、道具に名前・小分け容器チェック)
- 5 回 モデルグルーミング(チワワシャンプーコース見学)
- 6 回 初グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 実習の流れの理解、体調チェック、ブラッシング
- 7 回 グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～ブラッシングの復習
- 8 回 グルーミング実習 (3 人で 1 頭) 体調チェック～ブラッシング、シャンプー、ドライイング
- 9 回 グルーミング実習 (2～3 人で 1 頭) 体調チェック～ドライイングの復習

- 10 回 グルーミング実習（2～3 人で 1 頭）体調チェック～ドライング、耳掃除
- 11 回 グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～耳掃除の復習
- 12 回 グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～耳掃除、爪切り
- 13 回 グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～爪切りの復習
- 14 回 グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～爪切り、バリカン
- 15 回 グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～バリカンの復習
- 16 回 前期試験、グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～バリカン、ハサミ練習開始
- 17 回 試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～バリカン、足回りカット
- 18 回 試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2 人で 1 頭）体調チェック～足回りカットの復習
- 19 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～足回りカット、リボン付け
- 20 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付けの復習
- 21 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、時間を計る
- 22 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 150 分
- 23 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 140 分
- 24 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 130 分
- 25 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 120 分
- 26 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 110 分
- 27 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、チワワ 100 分
- 28 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、飛節下カット
- 29 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～飛節下カットの復習
- 30 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～飛節下カット、手根球下カット
- 31 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～手根球下カットの復習
- 32 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 165 分
- 33 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 155 分
- 32 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 145 分
- 33 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 135 分
- 34 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 125 分
- 35 回 グルーミング実習（1～2 人で 1 頭）体調チェック～リボン付け、ダックス 115 分

授業の方法

資料を使いグルーミングの基礎となる使い方や道具の名前、準備や掃除の行い方を教える。

ブリーダーやモデル犬を使用し実技実習を行う

教材

2026 年度

グルーミング用品・講義プリント(グルーミングとは、各工程の意義、道具の扱い方、準備や掃除の方法)

評価の方法

定期試験 (実技)30%、授業態度 (意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%)70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップやドッグカフェで 3 年半トリマーとして働き、動物園売店やペットショップでの用品販売の経験もあることから、技術的な指導はもちろん、接客のスキルも学生に教授することができる。

アニマルアクティビティ

授業の目的・概要

本授業では、動物との適切な関わり方やアニマルアクティビティの実践方法を学び、動物と人との良好な関係構築に必要な基礎的能力を養うことを目的とする。犬・猫・小動物などの行動特性やストレスサインを理解し、安全かつ動物福祉に配慮した接し方を身に付ける。また、動物介在活動の基礎やレクリエーション活動の企画・運営方法について学び、対象者や目的に応じたプログラムを考案できる力を育成する。さらに、高齢者施設や教育現場など多様な場面を想定した活動設計を通して、コミュニケーション能力とチームワークを高め、動物を介した社会貢献活動に必要な実践力を修得する。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	1 単位

目標
・ 犬・猫・小動物の行動特性およびストレスサインを理解し説明できる。
・ 動物福祉に配慮した安全なアニマルアクティビティの方法を身に付ける。
・ 対象や目的に応じた動物介在活動のプログラムを企画・立案できる。
・ 動物を介した活動において必要なコミュニケーション能力と協働力を身に付ける。

授業計画									
第 1 回	前 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン								
第 2 回	動 物 と の 関 わ り 方 と 安 全 管 理 の 基 礎								
第 3 回	動 物 の 行 動 観 察 （ 基 本 姿 勢 と 記 録 方 法 ）								
第 4 回	犬 と の 基 礎 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン （ 接 し 方 ・ サ イ ン 理 解 ）								
第 5 回	犬 を 用 い た ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ 基 礎 ）								
第 6 回	猫 の 行 動 特 性 と ス ト レ ス サ イ ン の 理 解								

第 7 回	猫 と の 適 切 な 接 し 方 と 環 境 づ く り
第 8 回	小 動 物 （ ウ サ ギ ・ モ ル モ ッ ト 等 ） と の ふ れ あ い 実 践
第 9 回	動 物 福 祉 （ ア ニ マ ル ウ ェ ル フ ェ ア ） の 基 礎
第 10 回	高 齢 動 物 と の 関 わ り 方 と 配 慮
第 11 回	動 物 を 用 い た リ ラ クゼ ー シ ョ ン 活 動 の 理 解
第 12 回	チ ー ム で 行 う ア ク テ ィ ビ テ ィ 企 画 （ 基 礎 ）
第 13 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ① ）
第 14 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ② ）
第 15 回	前 期 ま と め （ 実 践 振 り 返 り ）
第 16 回	後 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン
第 17 回	動 物 介 在 活 動 （ AAA ） の 基 礎 理 解
第 18 回	動 物 介 在 教 育 （ AAE ） の 事 例 学 習
第 19 回	動 物 介 在 療 法 （ AAT ） の 基 礎 理 解
第 20 回	施 設 内 ア ク テ ィ ビ テ ィ の 企 画 立 案
第 21 回	高 齢 者 施 設 に お け る 動 物 活 動 の 理 解
第 22 回	児 童 向 け 動 物 ふ れ あ い 活 動 の 設 計
第 23 回	ス ト レ ス 軽 減 を 目 的 と し た 活 動 プ ロ グ ラ ム
第 24 回	動 物 と 人 の 安 全 管 理 （ リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト ）
第 25 回	動 物 の 健 康 管 理 と 活 動 前 チ ェ ッ ク
第 26 回	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン と 接 遇 （ 利 用 者 対 応 ）
第 27 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ③ ）
第 28 回	ア ク テ ィ ビ テ ィ 実 践 （ グ ル ー プ 活 動 ④ ）
第 29 回	年 間 活 動 の 総 合 企 画 発 表
第 30 回	総 括 ・ 次 年 度 に 向 け た 改 善 検 討

授業の方法

講義形式を中心に説明をしていくが、グループワークや実践的な学習も一部取り入れていく。

教材

必要な資料等は授業中に配布していく。

評価の方法

試験 60 パー千、授業への参画 20%、課題提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、動物の行動特性やストレスサイン、基本的な接し方について教科書や資料を用いて予習し、授業内容の理解を深める準備を行う。事後学習としては、授業で実施したアクティビティや観察内容を振り返り、記録・整理することで理解を定着させるとともに、改善点や気づきをまとめ実践力の向上につなげる。

実務経験と授業科目の関係

ペット関連企業の運営経験を有しており、現場で求められる動物との接し方やサービス提供の実践的視点を授業内容に反映している。動物福祉や安全管理、利用者対応など、実務に即したアニマルアクティビティの企画・運営方法を学ぶことで、業界で即戦力となる実践的能力の育成に寄与する。

栄養学Ⅰ

授業の目的・概要

犬猫に必要な五大栄養素、エネルギー要求量、ライフステージに応じた栄養管理について体系的に理解することを目的とする。加えて、ペットフードに関する知識（種類・特性・選択方法）を習得し、現場での活用を見据えた実践的知識の定着を図る。

さらに、これらの基礎知識を基に、犬猫以外の動物にも応用可能な栄養管理の考え方を理解し、動物関連業界において幅広く対応できる能力の育成を目指す。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

前期

犬および猫に必要な五大栄養素の働きやエネルギー要求量について理解し、動物の健康維持に必要な栄養学の基礎知識を習得することができる。

また、栄養バランスの考え方を身につけ、各動物の状態に応じた適切な栄養管理の基礎的判断力を養うことができる。

後期

ペットフードの歴史や種類、ライフステージに応じた選択方法について理解を深めるとともに、食物アレルギーや誤食防止などに関する知識を習得することができる。

さらに、個体の状態に応じた適切なフード選択および指導ができる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を向上させることができる。

授業計画

- 1回 栄養学とは/栄養を摂取するとは
- 2回 五大栄養素（たんぱく質）
- 3回 五大栄養素（たんぱく質の消化）
- 4回 五大栄養素（炭水化物）

- 5 回 五大栄養素（炭水化物の消化）
- 6 回 五大栄養素（脂質）
- 7 回 五大栄養素（脂質の消化）
- 8 回 五大栄養素（ビタミン）
- 9 回 五大栄養素（ビタミンの消化）
- 10 回 五大栄養素（ミネラル）
- 11 回 五大栄養素（ミネラルの消化）
- 12 回 ボディコンディションスコア（BCS）
- 13 回 エネルギー要求量(種類)
- 14 回 エネルギー要求量(計算方法)
- 15 回 エネルギー要求量(計算してみる)
- 16 回 フードの歴史
- 17 回 4D/フードの種類（ドライ・セミモイスト・ウェット）
- 18 回 フードの種類（総合栄養食・栄養補助食・特別療法食）
- 19 回 パッケージの見方
- 20 回 添加物・酸化防止剤・保存料
- 21 回 ライフステージ（哺乳期・離乳期・成長期）
- 22 回 ライフステージ（維持期・高齢期）
- 23 回 ライフステージ（妊娠授乳期・治療期）
- 24 回 食物アレルギー
- 25 回 犬猫が食べてはいけないもの(食物)
- 26 回 犬猫が食べてはいけないもの(植物)
- 27 回 PB と NB の違い
- 28 回 手作り食
- 29 回 サプリメント(使い方)
- 30 回 サプリメント(形状と特徴)

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うワードを指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

総合ペットショップでの実務経験を有しており、その経験を活かして犬および猫の栄養管理やペットフードに関する実践的な知識を指導する。

家畜学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、産業動物として飼育される家畜について、基礎的な知識と実践的な理解を身につけることを目的とする。ウシ、ブタ、ウマ、ニワトリを中心に、各家畜の特徴、体の構造、生理的特性、品種、飼育管理、栄養、施設設備、疾病などについて体系的に学ぶ。また、家畜伝染病予防法をはじめとした衛生管理や疾病予防の基礎知識を理解し、動物業界で求められる家畜に関する専門性を養う。講義を通して、家畜の適正な飼養管理と動物福祉への理解を深め、将来的に畜産・動物関連分野で活躍できる基礎力の修得を目指す。

科	生命科学科	教員	1 名
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	観光牧場飼育員 4 年
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期で家畜動物についての概要、ウシの体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病およびブタについてのウシの体の特徴について理解する。後期ではブタ飼育に関する知識、生産物や疾病およびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解する。

授業計画

- 1 回 家畜動物の定義について
- 2 回 ウシの概要について（ウシとは）
- 3 回 ウシの概要について（ウシとは）、ウシの体の構造について（前軀）
- 4 回 ウシの体の構造について（後軀）
- 5 回 ウシの体の構造について（内臓、生理的特徴）
- 6 回 ウシの品種について、ウシの飼育について
- 7 回 ウシの飼育について（施設について）

- 8 回 ウシの飼育について（餌、栄養について）
- 9 回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法）
- 10 回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法対象外の疾病について）
- 11 回 ブタの概要について
- 12 回 ブタの体の構造について（前軀）
- 13 回 ブタの体の構造について（後軀）
- 14 回 ブタの飼育について（施設について）
- 15 回 ブタの飼育について（餌、栄養について）
- 16 回 ブタの疾病について
- 17 回 ウマの概要について
- 18 回 ウマの体の構造について（前軀）
- 19 回 ウマの体の構造について（後軀）
- 20 回 ウマの品種について（軽種、中間種）
- 21 回 ウマの品種について（重種、ポニーなど）、ウマの飼育について（施設について）
- 22 回 ウマの飼育について（餌について）
- 23 回 ウマの飼育について（用品について）
- 24 回 ウマの疾病について（蹄に関わる疾病）
- 25 回 ウマの疾病について（蹄以外の疾病）
- 26 回 ニワトリの概要について
- 27 回 ニワトリの体の構造について
- 28 回 ニワトリの品種について
- 29 回 ニワトリの飼育について
- 30 回 ニワトリの疾病について

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリントを用いて内容を解説していく。

2026 年度

教材

農学基礎セミナー 新版家畜飼育の基礎

⇒著者：阿部 亮、発行日：2014 年 1 月 15 日 第 6 刷発行

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

観光牧場にてウマの飼育管理及びウシ・ブタ・ヒツジ・ヤギ・ラマなどが飼養される環境で勤務していたため、家畜動物の知識・技術を教えることができる。動物園にて実務経験あり。

基礎健康管理学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業は動物業界への就職を目指す学生を対象に、犬猫を中心とした伴侶動物の健康管理に関する基礎知識と実践的理解を身につけることを目的とする。運動や排泄管理、全身のケア、口腔衛生、熱中症予防などの日常的ケアから、ワクチンや寄生虫予防、登録制度といった予防医学の基礎を体系的に学ぶ。また犬種・猫種ごとの疾患傾向や中毒などの危険要因についても理解を深め、動物の健康維持に必要な観察力と判断力の基礎を養う。前後期の復習を通して知識の定着を図り、現場での適切なケアにつなげる。

科	生命科学科	教員	田中
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

犬や猫の日常的な健康管理と予防について理解することができる。

正常時と異常時の違いを理解することで、異常時に早く気づき、対応することができる。

後期

1 学期に引き続き健康学と予防について学ぶ。またそれらを基礎とし、様々な疾患について理解することができる。

授業計画

- 1 回 授業について
- 2 回 散歩・運動について
- 3 回 排泄、排尿について
- 4 回 全身のお手入れ、各疾患について①
- 5 回 全身のお手入れ、各疾患について②
- 6 回 全身のお手入れ、各疾患について③
- 7 回 口腔衛生について①
- 8 回 口腔衛生について②

- 9回 口腔衛生について③
- 10回 熱中症について①
- 11回 熱中症について②
- 12回 犬の登録
- 13回 ワクチンで予防できる病気（犬）
- 14回 ワクチンで予防できる病気（猫）
- 15回 前期復習
- 16回 犬糸状虫症の予防について
- 17回 前期授業の振り返り
- 18回 外部寄生虫について①
- 19回 外部寄生虫について②
- 20回 外部寄生虫について③
- 21回 腸内寄生虫について①
- 22回 腸内寄生虫について②
- 23回 腸内寄生虫について③
- 24回 犬種によって多く見られる疾患について①
- 25回 犬種によって多く見られる疾患について②
- 26回 猫種によって多く見られる疾患について①
- 27回 猫種によって多く見られる疾患について②
- 28回 中毒について①
- 29回 中毒について②
- 30回 後期復習

授業の方法

講義、グループワーク

教材

自作プリント、教科書（コンパニオンアニマルの健康管理学）

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に判断する。

2026 年度

授業外での学習方法
授業用のプリントと教科書を各自見直し、纏める。

実務経験と授業科目の関係
あり

動物生態学

授業の目的・概要

ペットショップのような専門動物販売店では、イヌ・ネコや小動物に関する知識だけでなく、植物や餌となる昆虫類などの専門的な知識が求められている。生物の生存するために必要な行動は、種は違えども多くの種で共通する。本講義を通して昆虫からほ乳類、植物など幅広いの生物の生態に関心を持とう。

科	生命科学科	教員	佐崎 順
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- * 五界説を理解することができる
- * 生物の形態学的、生態学的、生理学的特徴を理解することができる
- * 生物と環境、生物と生物同士の関係について理解することができる
- * 自然環境下での生態を理解したうえで、ペットを含めた飼育動物の生態を理解することができる

授業計画

- 1 回 動物生態学とは、生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 2 回 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 3 回 生物の系統①（原核生物とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 4 回 生物の系統②（原生生物、菌界とは：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
- 5 回 生物の系統③（植物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
顕花植物、単子葉植物、双子葉植物とは
- 6 回 生物の系統④（植物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
栄養根の塊根、塊茎とは
- 7 回 生物の系統⑤（植物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
葉のつき方、葉の形などの単葉・複葉、花の枚数など
- 8 回 生物の系統⑥（植物界とは④：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
分類群ごとの特徴（アブラナ科、キク科など）
- 9 回 生物の系統⑦（動物界とは①：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）

ほ乳類、鳥類

10 回 生物の系統⑧（動物界とは②：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）

鳥類、両生類、は虫類 分類群ごとの特徴

11 回 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）

魚類、水生生物 分類群ごとの特徴

12 回 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）

昆虫類①：昆虫綱と鋏角綱の違い、分類群ごとの特徴

13 回 生物の系統⑩（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）

昆虫類② 分類群ごとの特徴

14 回 生態系とは（バイオスフィア実験からみる生態系）

15 回 生物群集とは（食物連鎖、食物網）

16 回 生物と環境①（作用：ベルクマンの法則）

17 回 生物と環境②（作用：アレンの法則）

18 回 生物と環境③（反作用）

19 回 生物と環境④（相互作用：種内競争、種間競争、植物）

20 回 生物と環境⑤（相互作用：植物、動物、干渉作用）

21 回 生物と環境⑥（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

22 回 生物と環境⑦（相互作用：動物、なわばりと行動圏）

23 回 生物と環境⑧（擬態と擬装について、種内競争：眼状紋、制服擬態）

24 回 生物と環境⑨（擬態と擬装について、偽物型擬態、攻撃擬態）

25 回 生物と環境⑩（異種間との関係、共生：相利共生）

26 回 生物と環境⑪（異種間との関係、共生：片利共生、片害）

27 回 生態系における異種間との種間関係の意義

28 回 健全な生態系とは

29 回 総まとめ①

30 回 総まとめ②

授業の方法

* 本講義では、具体的な例を挙げて説明する

* 必要に応じて、生物分類技能検定の過去問の解説を行う

教材

* ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）

* 授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

2026 年度

- * 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。
- * 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- * 過去問を多く解く
- * 授業だけでなく、普段の生活の中で身近な生物（昆虫、鳥類、植物）に関心をもって観察する

実務経験と授業科目の関係

- * 生物分類技能検定 3 級資格保有
- * 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- * 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

両生爬虫類学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、両生爬虫類を中心に基本的な生態・形態・飼育など両生爬虫類を利用した就業に必要な技術・知識の習得を目的とする。具体的にはペットショップ、動物園などの就職時に役立つ技術・知識の習得を目指す。

前期では両生類爬虫類の分類や生態、形態など基本的なことを中心に理解する。後期では、両生爬虫類の具体的な飼育法と両生類爬虫類に関する法令などを理解する。また近年行われている両生類爬虫類の研究なども理解する。前期後期を通して、定期的なレポート作成課題も行う。

科	生命科学科	教員	和泉翔太
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

- ・ 現存している両生類爬虫類の分類と代表種の説明をする
- ・ 両生類爬虫類の形態について理解することができる
- ・ 両生類爬虫類の基本的な生態を理解する

後期

- ・ 両生爬虫類の具体的な飼育法などを理解できる
- ・ 両生類爬虫類に関する法令や条約などを理解する
- ・ 近年行われている両生類爬虫類の研究などの理解をする

授業計画

前期

- ・第1回 自己紹介,アイスブレイク,授業概要説明,課題作成時の注意点
- ・第2回 両生類（両生綱）の分類について（有尾目）
- ・第3回 両生類（爬虫綱）の分類について（無尾目）
- ・第4回 爬虫類（爬虫綱）の分類について（有鱗目）
- ・第5回 爬虫類（爬虫綱）の分類について（カメ目、ワニ目）
- ・第6回 両生類の形態
- ・第7回 両生類の成長
- ・第8回 爬虫類の形態1（有鱗目）
- ・第9回 爬虫類の形態2（カメ目、ワニ目）
- ・第10回 爬虫類の成長
- ・第11回 両生類の生態
- ・第12回 爬虫類の生態1（有鱗目）
- ・第13回 爬虫類の生態2（カメ目、ワニ目）
- ・第14回 両生爬虫類の採取法とその注意点
- ・第15回 前期試験対策
- ・第16回 前期試験
- ・第17回 採点期間
- ・第18回 前期試験フィードバック

後期

- ・第19回 両生類の飼育法1（飼育環境、レイアウト）
- ・第20回 両生類の飼育法2（病気など飼育の際の注意点）
- ・第21回 爬虫類（ヘビ）の飼育法（飼育環境、レイアウト）
- ・第22回 爬虫類（大型トカゲ）の飼育法（飼育環境、レイアウト）
- ・第23回 爬虫類（小型トカゲ）の飼育法（飼育環境、レイアウト）
- ・第24回 爬虫類の飼育法（病気など飼育の際の注意点）
- ・第25回 ワシントン条約について
- ・第26回 種の保存法・天然記念物など国内法1

- ・第 27 回 種の保存法・天然記念物など国内法 2
- ・第 28 回 両生類の学術研究
- ・第 29 回 爬虫類の学術研究
- ・第 30 回 後期試験対策
- ・第 31 回 後期試験
- ・第 32 回 後期試験採点期間
- ・第 33 回 後期試験フィードバック
- ・第 34 回 前期授業の振り返り
- ・第 35 回 後期授業の振り返り

授業の方法

講義、演習

教材

授業内容についてのプリントなど適宜配布

評価の方法

試験 40%、授業への参画 40%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次回授業について、わからない単語などは予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業ごとに出てくる両生爬虫類で知らなかった種や授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。学術的な引用を用いたレポートなどの課題の作成も行う。

実務経験と授業科目の関係

-

公衆衛生学Ⅰ

授業の目的・概要

動物にかかわる職業人として必要な人と動物の健康保持・推進のための専門的知識を身につける。また、近年環境破壊等の人間活動を原因とする新興感染症・再興感染症の台頭が地球規模で問題となっており、これらの多くが人獣共通感染症であることから、人、動物、環境のかかわりについてグローバルな視点を持った人物になれるよう学習をすすめる。

科	生命科学科	教員	花木 久実子
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・ 公衆衛生の基本となる国民衛生の動向や疫学調査について理解することができる。
- ・ 感染症の基本的知識（疫学、病原体、感染、免疫、防疫等）やおもな細菌性・ウイルス性・寄生虫性人獣共通感染症、食中毒等の各論について発生・感染源・流行・予防措置等を学ぶことにより、人と動物を共に感染症から守るための対策を講じ、周囲に対する啓発活動ができるようになる。
- ・ 地球環境問題に対する意識をもって人獣共通感染症の問題点を考えることができる。

授業計画

- 1 回 公衆衛生とは
- 2 回 国民衛生の動向
- 3 回 疫学と疾病予防
- 4 回 感染症の基礎 1（病原体とは）
- 5 回 感染症の基礎 2（細菌、真菌、ウイルス、寄生虫）
- 6 回 感染症の基礎 3（感染成立の要因、免疫、予防）
- 7 回 人獣共通感染症総論
- 8 回 細菌性人獣共通感染症各論 1（ペスト、結核、炭疽、野兔病、ブルセラ症、細菌性赤痢等）
- 9 回 細菌性人獣共通感染症各論 2（腸管出血性大腸菌感染症、破傷風、猫ひっかき病等）
- 10 回 細菌性人獣共通感染症各論 3（レプトスピラ病、カンピロバクター症、Q 熱等）

- 11 回 細菌性人獣共通感染症各論 4（つつが虫病、オウム病、紅斑熱群リケッチア症等）
- 12 回 寄生虫性人獣共通感染症各論 1（原虫、線虫）
- 13 回 寄生虫性人獣共通感染症各論 2（吸虫）
- 14 回 寄生虫性人獣共通感染症各論 3（条虫）
- 15 回 前期まとめ
- 16 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 1（ウイルス性出血熱、日本脳炎等）
- 17 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 2（デング熱、黄熱、ジカウイルス感染症等）
- 18 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 3（重症熱性血小板減少症候群、鳥インフルエンザ等）
- 19 回 ウイルス性人獣共通感染症各論 4（COVID-19 感染症、B ウイルス感染症等）
- 20 回 狂犬病について
- 21 回 真菌性人獣共通感染症、公衆衛生上重要な衛生昆虫
- 22 回 新興感染症・再興感染症について
- 23 回 食中毒 1（原因、発生状況、予防）
- 24 回 食中毒 2（細菌性食中毒）
- 25 回 食中毒 3（ウイルス性食中毒、寄生虫性食中毒）
- 28 回 食中毒 3（自然毒やカビ毒による食中毒）
- 29 回 食品衛生法の概要
- 30 回 後期まとめ

授業の方法

パワーポイントによる講義

教材

授業前に資料を配布する

評価の方法

期末試験 60%、レポート 20%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

厚生労働省のウェブサイト等により人獣共通感染症や食中毒に関する基礎知識を予習しておく。

実際に発生した感染症や食中毒に関するニュース等を日常的にチェックしてノートにまとめておく。

また、授業内容で疑問に思ったこと、興味を持ったことを整理しておく。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係
公衆衛生獣医師として自治体保健所や監視事務所等において食品衛生、環境衛生、動物衛生及び感染症予防業務に従事した経験に基づき実践的な授業を行う

飼育用品概論 I

授業の目的・概要

本授業では、犬や猫を中心とした伴侶動物の飼育用品について、種類や特徴、安全性、使用目的を総合的に学ぶことを目的とする。フードや食器、ケージ、トイレ用品、移動用品、グルーミング用品、介護用品、おもちゃなど幅広い用品を取り上げ、動物種やライフステージ、飼育環境に応じた適切な選択方法を理解する。また、動物福祉や安全性、飼い主ニーズ、市場トレンドとの関係についても学び、実際の現場で役立つ知識を身につける。さらに、エンリッチメントやしつけ用品を通して、動物の心身の健康維持に配慮した用品活用を理解し、ペット業界で求められる実践的な提案力と基礎知識の修得を目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	スモールアニマルコース ワイルドアニマルコース	教員の実務経験	ペットショップ歴 6 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

一年を通してペットショップで取り扱われている用品全般の特徴や使用方法、注意点などを把握し生体ごとの適している物などについて理解をし、接客などで話せるようになる。

授業計画

- 1 回 飼育用品概論 I とは、何をしていくか
- 2 回 犬と猫の違いから見る用品の考え方
- 3 回 ライフステージ別用品の説明
- 4 回 動物福祉と飼育用品の関係
- 5 回 安全性と素材(誤飲・中毒・耐久性)
- 6 回 飼い主様のニーズと市場トレンド(SNS・高機能化)
- 7 回 フードの種類(ドライ・ウェット・療法食)
- 8 回 食器と給水器の種類
- 9 回 自動機器の仕組みと活用
- 10 回 おやつ・サプリメントと注意点
- 11 回 ケージ・クレート・サークルの違いや選び方
- 12 回 ベッド・マットの種類や選び方

- | | |
|------|---------------------|
| 13 回 | トイレ用品について |
| 14 回 | 猫のトイレ砂の種類と特徴 |
| 15 回 | 前期のまとめ |
| 16 回 | 室内環境(湿度・温度・空調グッズ) |
| 17 回 | 首輪・ハーネス・リードの種類 |
| 18 回 | キャリーケース・移動用品 |
| 19 回 | 散歩グッズ（マナー用品・安全用品） |
| 20 回 | 迷子防止用品（迷子札・GPS など） |
| 21 回 | 多頭飼育・大型犬・特殊ケース用品 |
| 22 回 | ブラシ・コームの種類と使い分け |
| 23 回 | シャンプー・ケア用品（皮膚・被毛） |
| 24 回 | 爪切り・耳掃除・デンタルケア用品 |
| 25 回 | ノミ・ダニ対策用品 |
| 26 回 | 高齢動物向け用品（介護グッズ） |
| 27 回 | おもちゃの種類と役割（ストレス・運動） |
| 28 回 | 知育トイ・エンリッチメント |
| 29 回 | しつけ用品（トレーニンググッズ） |
| 30 回 | 後期のまとめ |

授業の方法

グループディスカッション・座学

教材

なし

評価の方法

80%、平常点 20%（、等）

授業外での学習方法

授業で学んだ用品について、実際に店舗やオンラインショップで種類や特徴を確認し、用途や安全性を比較しながら復習すること。あわせて、動物福祉や最新の飼育用品に関する情報収集を行うこと。

実務経験と授業科目の関係

2026 年度

実務経験を活かし、用品販売や接客を通じて得た知識をもとに、動物種やライフステージに応じた用品選び、飼い主への提案方法など、現場で役立つ実践的な内容を指導する。

動物解剖・生理学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物の体の構造と機能について基礎から体系的に学び、動物看護や飼育管理に必要な解剖学・生理学の知識を身につけることを目的とする。消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、神経系、内分泌系、生殖器など各器官の構造と働きを理解するとともに、骨格や筋肉、皮膚、免疫機構についても学習する。また、犬猫の繁殖生理や遺伝学、代謝、生体防御機構など専門的内容にも触れ、動物の健康維持や疾病理解につながる基礎力を養う。講義を通して、動物業界において必要とされる科学的知識と観察力の修得を目指す。

科	生命科学科	教員	森 聖
コース	スモールアニマル	教員の実務経験	動物解剖生理学講師 3年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

動物の解剖生理機能において、基本的な知識を習得し、動物の基本的な特性を理解することができる。

専門課程の授業での専門用語を理解することができる。

授業計画

第1回 自己紹介/「ガイダンス」体の各部位の名称、マイクロプラスチックの人への影響

第2回 体の基本の仕組み

第3回 消化器

第4回 泌尿器

第5回 運動器

第6回 皮膚と感覚器

第7回 循環器

第 8 回 呼吸器

第 9 回 内分泌とホルモン

第 10 回 体内の情報伝達

第 11 回 血液と造血器

第 12 回 生殖器の形態と機能

第 13 回 遺伝学概論

第 14 回 犬科の繁殖生理

第 15 回 猫科の繁殖生理

第 16 回 骨格系

第 17 回 筋肉系

第 18 回 皮膚

第 19 回 循環器-2

第 20 回 呼吸器-2

第 21 回 口腔

第 22 回 胃腸

第 23 回 脾臓

第 24 回 肝臓

第 25 回 消化・吸収

第 26 回 代謝

第 27 回 腎臓学

第 28 回 生体の防御機構_免疫 制御性 T 細胞とは

第 29 回 脳と神経-1 神経系の構造と働き

第 30 回 脳と神経-2

授業の方法

口頭説明とともに、スライド・動画、参考資料を用いる。その資料うち、重要事項は学生が音読する。復

2026 年度

習のため、宿題を作成する。最新の学術論文のインターネット検索を実演する。

教材

- 1 2022 EP.動物看護師教科書 1 巻、
- 2 愛玩動物飼養管理士の教本 2 級と 1 級、
- 3 放送大学の解剖生理学関連科目__人体の構造と機能、感覚器、神経系、免疫など。
- 4 政府機関・大学の HP や YouTube を活用。

評価の方法

宿題回答成績や期末試験 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業前には教科書や配布資料を確認し、各器官の名称や役割について予習を行うこと。授業後はノート整理や復習を通して体の構造と機能を関連づけて理解し、専門用語や重要事項を繰り返し確認すること。

実務経験と授業科目の関係

獣医師・博士（医学）の知識に基づき、授業科目関連の最新情報をインターネット検索・整理し、講義資料を作成する。

生体管理概論実習Ⅰ

授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

科	生命科学科	教員	植田、濱崎
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

授業計画

[前期]

- 第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
水槽管理 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）

- 第 2 週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
水槽管理 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
- 第 3 週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
水槽管理 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
- 第 4 週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
水槽管理 ヒョウモントカゲモドキ（レオパードゲッコー）飼育実践
- 第 5 週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践
水槽管理 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、パッキングについて
- 第 5 週 小動物飼育 健康管理について飼育実践
水槽管理 水槽の掃除、美化について
- 第 6 週 小動物飼育 保定方法について飼育実践
水槽管理 機材メンテナンスについて
- 第 7 週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）
水槽管理 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)
- 第 8 週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水槽管理 魚の健康管理について
- 第 9 週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）
水槽管理 餌について
- 第 10 週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水槽管理 バクテリアについて
- 第 11 週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）
水槽管理 水質について①-主に淡水(水質検査含む)
- 第 13 週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水質について②-主に淡水(水質検査含む)
- 第 14 週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）
ろ過について
- 第 15 週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水槽の立ち上げについて
- 第 16 週 前期試験
- 第 17 週 前期まとめ・調べ学習
- 第 18 週 試験返却・試験の振り返り
- [後期]
- 第 19 週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）
レイアウトについて-淡水編
- 第 20 週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
レイアウトについて-海水編
- 第 21 週 小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）
コケの種類と原因、対策について（基礎）

- | | |
|--------|---|
| 第 22 週 | 小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
コケの種類と原因、対策について（応用） |
| 第 23 週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）
水草育成について①-種類、育成環境 |
| 第 24 週 | 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水草育成について②-維持管理 |
| 第 25 週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）
サンゴ育成について①-種類、育成環境 |
| 第 29 週 | 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
サンゴ育成について②-維持管理 |
| 第 30 週 | 後期試験 |
| 第 31 週 | 後期まとめ・調べ学習 |
| 第 32 週 | 試験返却・試験の振り返り |
| 第 33 週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）
水槽管理における淡水と海水の違い |
| 第 34 週 | 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）
水槽のリセットについて(半リセット含む) |
| 第 35 週 | 1 年の振り返り |

授業の方法

講義・実習

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマル、両生爬虫類、飼育用品概論のノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

動物飼育の実務経験を有しており、小動物の飼育管理や接客を伴う動物展示環境における日常管理、健康

2026 年度

観察、ストレス管理等の現場経験を持つ。その経験を活かし、授業では小動物および水槽生体の適切な飼育管理や利用者対応を踏まえた実践的な指導を行い、現場で求められる総合的な動物管理能力の育成に寄与する。

動物看護基礎実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物看護の基礎として、犬猫を中心とした動物への接し方や保定方法、バイタルサインの測定など基本的な看護技術を習得することを目的とする。実習を通して、立位・伏臥位などの保定方法や健康チェックの手順を学び、安全かつ適切に動物を扱う技術を身につける。また、ワクチン接種や寄生虫予防、避妊・去勢手術、肥満予防などの予防医療についても理解を深め、動物の健康管理に関する基礎知識を養う。さらに、エキゾチックアニマルについても学習し、幅広い動物種への対応力を身につけることを目指す。

科	生命科学科	教員	田中
コース	スモールアニマルコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

動物に負担がかからないような基本的な保定ができるようにする。またバイタルサインを理解し、いち早く動物の異常に気付くことができる。

後期

ワクチン、フィラリア予防、ノミダニ予防など基本的な予防について理解し、説明することができる。
また基本的な健康管理だけでなく、エキゾチックアニマルの健康管理、保定をすることができる。

授業計画

第1週 自己紹介、授業について、実習室での注意点

第2週 動物への接し方、保定について

第3週 犬の保定（立位、犬座）

第4週 犬の保定（伏臥位、横臥位）

第5週 猫の保定

第6週 実習（犬の保定）

第7週 バイタルサイン（体重、体温）

- 第 8 週 バイタルサイン（脈拍、呼吸、CRT）
- 第 9 週 バイタルサインの注意点
- 第 10 週 実習（猫の保定）
- 第 11 週 健康チェック①
- 第 12 週 健康チェック②
- 第 13 週 健康チェック③
- 第 14 週 実習（バイタルサイン、健康チェック）
- 第 15 週 混合ワクチン・狂犬病ワクチンについて①
- 第 16 週 前期試験
- 第 17 週 混合ワクチン・狂犬病ワクチンについて①
- 第 18 週 試験返却
- 第 19 週 混合ワクチンで防げる病気（犬）
- 第 20 週 混合ワクチンで防げる病気（猫）
- 第 21 週 フィラリア予防①
- 第 22 週 フィラリア予防②
- 第 23 週 ノミダニ予防①
- 第 24 週 ノミダニ予防②
- 第 25 週 避妊手術、去勢手術について
- 第 26 週 去勢手術で予防できる病気①
- 第 27 週 避妊手術で予防できる病気②
- 第 28 週 肥満の予防①
- 第 29 週 肥満の予防②
- 第 30 週 エキゾチックアニマル①
- 第 31 週 後期試験
- 第 32 週 エキゾチックアニマル②
- 第 33 週 試験返却
- 第 34 週 エキゾチック③
- 第 35 週 総復習

授業の方法

講義、実習

教材

2026 年度

自作プリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業用プリントを各自纏めなおす。実習時にできなかったこと、次回の目標を整理する

実務経験と授業科目の関係

あり